

自然環境整備計画(国定公園等整備事業)
【令和 7年度～令和11年度】

やまがたけん
山形県

令和6年12月

目標、計画期間及び整備方針(自然環境整備計画(国定公園等整備事業))

都道府県名	山形県	対象地域	蔵王国定公園
-------	-----	------	--------

計画期間	令和 7 年度 ~ 令和 11 年度
------	--------------------

<p>目標</p> <p>大目標: 老朽化した施設の再整備や歩道等の整備による自然環境の保全及び適正な利用促進</p> <p>目標1: 蔵王山周辺の歩道等の整備により、植生の保護及び利用者の安全性の向上を図る。</p> <p>目標2: 園地等施設の再整備や歩道等の整備により、利用者の満足度・快適性の向上を図る。</p>

<p>目標設定の根拠</p> <p>対象地域の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蔵王国定公園は山形県と宮城県の県境に位置する蔵王連峰及び面白山一帯の火山群により構成される山岳自然公園であり、蔵王には全国的にも有名な火口湖である「御釜」がある。 ・蔵王国定公園は交通機関の利便性がよく、観光の拠点としても重要な地域である。 ・蔵王国定公園には県内外から年間約2,782千人(令和4年自然公園等利用者数調)が訪れており、歩道等の利用度は高い。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩道等施設は厳しい自然条件下にあり、整備後の経年劣化などのため老朽化が進んでいる。 ・利用者が老朽化した歩道等の利用を避けて植生のある場所に踏み入るようになるため、踏圧による植生の荒廃が認められる。 ・既存の登山道は土砂流失による浮き石の露出などにより通行が困難となり、利用者が植生帯の中に踏み入ることで路線が複数化していることから、怪我や遭難のおそれがある。 ・既存のトイレは外国人の利用も想定した洋式化が求められている。 ・活火山である蔵王山の活動に変化が認められた場合、登山者の早急かつ安全な避難が求められる。

<p>対象地域の整備方針</p> <p>整備方針(植生の保護)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・裸地化を未然に防ぐため、歩道等を整備することにより、植生部分への踏み込みを防止する。[A] ・貴重な高山植物植生地に立ち入らないように歩道周囲にロープを設置する。[A] <p>整備方針(安全性の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩道等の整備により、ルートを明確にし、悪天候時の遭難発生を防止する。[A] ・歩道構造物を整備することにより、雨天時でも滑りにくくし、利用者の転倒による怪我の危険性を軽減させる。[A] ・火山活動に変化が認められた場合、登山者を早急かつ安全に避難誘導する。[A] <p>整備方針(利用者満足度の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩道等を整備することにより、歩道利用者の快適性の向上を図る。[A] ・高山植物等を保護することにより、利用者が高山植物等の山岳資源の魅力に触れ、満足度の向上・リピーターの増加を図る。[A] ・公衆トイレの改修は外国人の利用も想定し、ユニバーサルデザインにも考慮する。[B] 	<p>方針に沿った主要な事業</p> <p>(国定公園)</p> <p>1-1お清水刈田線歩道(県)[A]</p> <p>(国定公園)</p> <p>1-1お清水刈田線歩道(県)[A]</p> <p>(国定公園)</p> <p>1-1お清水刈田線歩道(県)[A] 1-2蔵王高原園地(県)[B]</p>
---	--

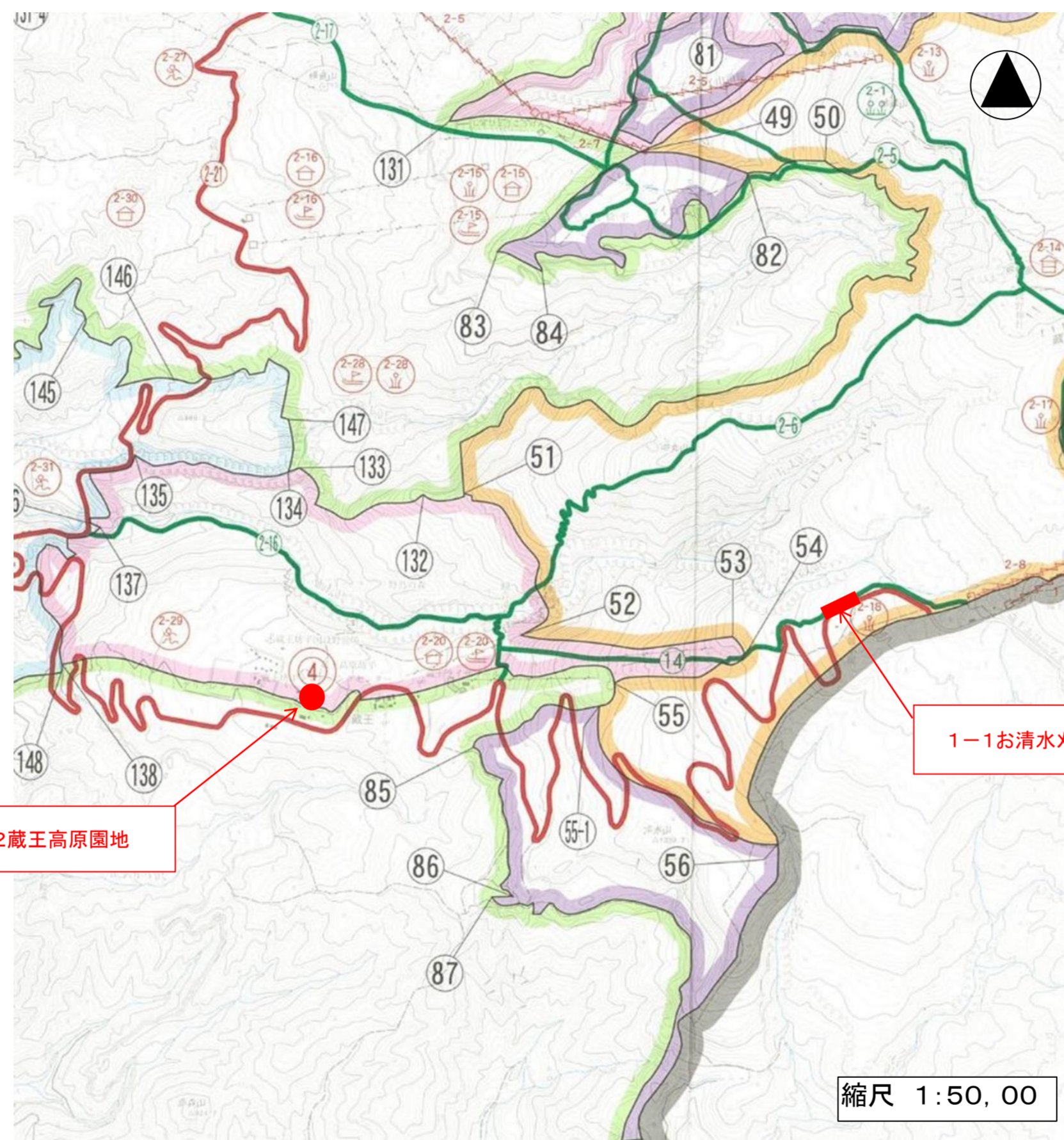
目標を定量化する指標								
指標	単位	定義	調査等の方法	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
						基準年度	目標年度	目標年度
公園利用者数の増加	千人	利用者数の増減数値	山形県観光者数調査における山岳観光者(蔵王)の数値	「利用者満足度や安全性の向上」に対応する指標とし、利用者数の増加が利便性・安全性の向上を示す数値となる。目標値は従前値の5%増加の値とする。	215.9	令和5年度	226.7	令和11年度

<p>その他必要な事項</p>

概要図(自然環境整備計画(国定公園等整備事業))(山形県)

都道府県名	山形県	対象地域	蔵王国定公園	所在地	カミヤマシ 上山市
-------	-----	------	--------	-----	--------------

※ 対象地域の図面を添付すること。



1-2蔵王高原園地

1-1お清水刈田線歩道

縮尺 1:50,00

目標、計画期間及び整備方針(自然環境整備計画(国定公園等整備事業))

都道府県名	山形県	対象地域	栗駒国定公園
-------	-----	------	--------

計画期間	令和 7 年度 ~ 令和 11 年度
------	--------------------

<p>目標</p> <p>大目標: 歩道等の整備による自然環境の保全及び適正な利用促進 目標1: 神室山周辺の歩道等の整備により、植生の保護及び利用者の安全性の向上を図る。 目標2: 歩道等施設の整備により、利用者の満足度・快適性の向上を図る。</p>

<p>目標設定の根拠</p> <p>対象地域の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 栗駒国定公園は岩手県、宮城県、秋田県、山形県にまたがる標高1,627mの栗駒山を中核とする山岳自然公園であり、神室連峰はその南西端に位置する。 栗駒国定公園(神室山)には「ミネカエデ」などの美しい灌木帯が見られることなどから、年間約23千人(令和5年度山形県観光者数調査)が訪れている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者が浸食した歩道の利用を避けて植生のある場所に踏み入るようになるため、植生の荒廃が認められる。 既存の登山道は土砂流失による浮き石の露出などにより通行が困難となり、利用者が植生に踏み入ることで路線が複数化していることから、怪我や遭難のおそれがある。

対象地域の整備方針	方針に沿った主要な事業
<p>整備方針(植生の保護)</p> <ul style="list-style-type: none"> 裸地化を未然に防ぐため、歩道等を整備することにより、植生部分への踏み込みを防止する。[A] 	<p>(国定公園)</p> <p>1-3蒲沢線歩道(新庄市)[A]</p>
<p>整備方針(安全性の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩道等の整備により、ルートを明確にし、悪天候時の遭難発生を防止する。[A] 歩道構造物を整備することにより、雨天時でも滑りにくくし、利用者の転倒による怪我の危険性を軽減させる。[A] 	<p>(国定公園)</p> <p>1-3蒲沢線歩道(新庄市)[A]</p>
<p>整備方針(利用者満足度の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩道等を整備することにより、歩道利用者の快適性の向上を図る[A] 	<p>(国定公園)</p> <p>1-3蒲沢線歩道(新庄市)[A]</p>

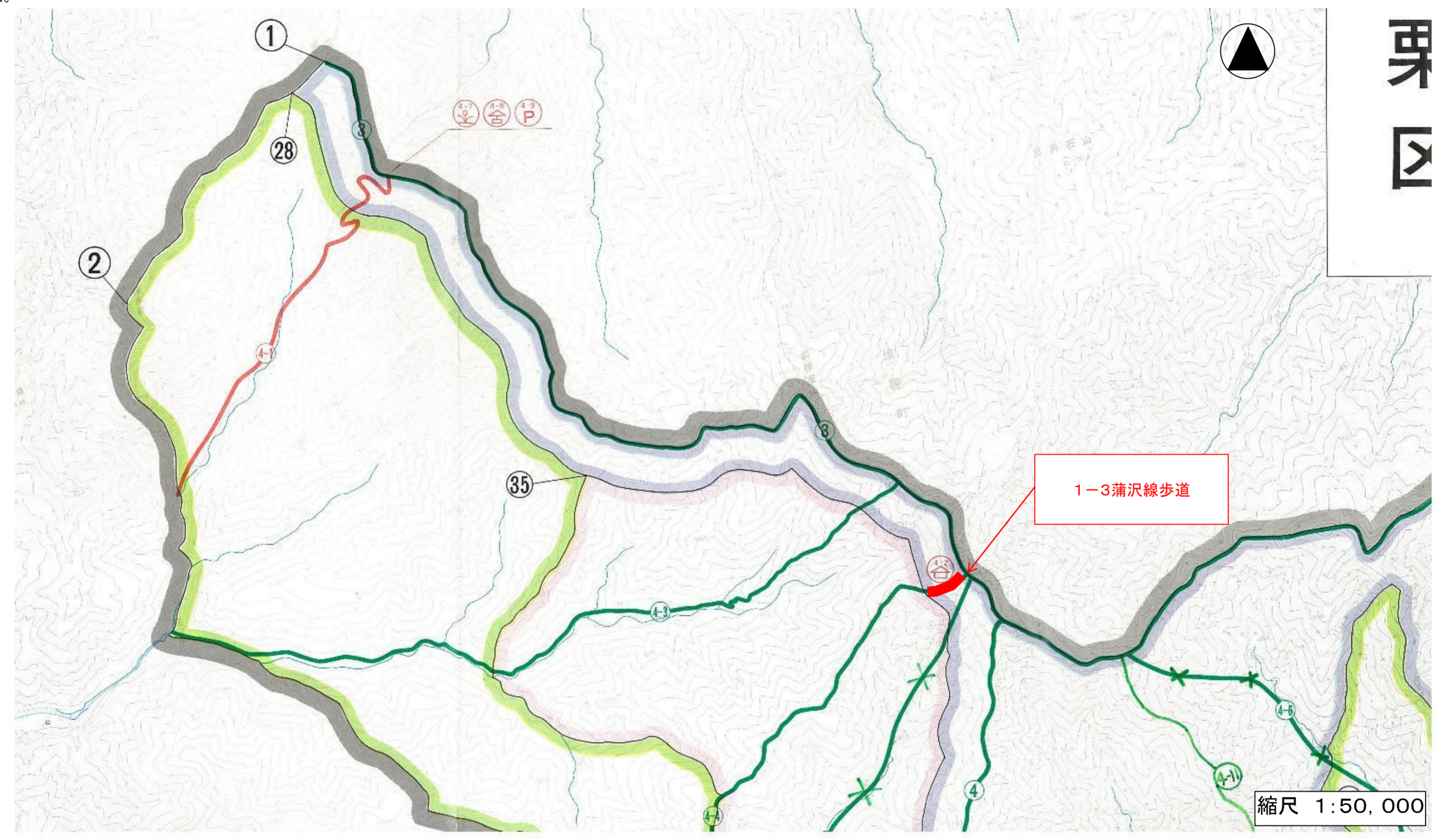
目標を定量化する指標								
指標	単位	定義	調査等の方法	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
						基準年度	目標年度	目標年度
公園利用者数の増加	千人	利用者数の増減数値	山形県観光者数調査における山岳観光者(神室山)の数値	「利用者満足度や安全性の向上」に対応する指標とし、利用者数の増加が利便性・安全性の向上を示す数値となる。目標値は従前値の5%増加の値とする。	22.7	令和5年度	23.8	令和11年度

<p>その他必要な事項</p>

概要図(自然環境整備計画(国定公園等整備事業))(山形県)

都道府県名	山形県	対象地域	栗駒国定公園	所在地	新庄市
-------	-----	------	--------	-----	-----

※ 対象地域の図面を添付すること。



目標、計画期間及び整備方針(自然環境整備計画(国定公園等整備事業))

都道府県名	山形県	対象地域	鳥海国定公園
-------	-----	------	--------

計画期間	令和 7 年度 ~ 令和 11 年度
------	--------------------

<p>目標</p> <p>大目標:老朽化した施設の再整備や歩道等の整備による自然環境の保全及び適正な利用促進 目標1:鳥海山周辺の歩道等の整備により、植生の保護及び利用者の安全性の向上を図る。 目標2:車道等施設の再整備や歩道等の整備により、利用者の満足度・快適性の向上を図る。</p>
--

<p>目標設定の根拠</p> <p>対象地域の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 鳥海国定公園は山形県と秋田県にまたがる火山孤峰である標高2,236mの鳥海山を中核とする山岳自然公園である。 鳥海山は、深田久弥の「日本百名山」とともに田中澄江の「花の百名山」にも選ばれ、貴重な高山植物や湿原の花畑などの豊かな自然に恵まれている。 鳥海国定公園には年間約774千人(令和4年自然公園等利用者数調)の利用者が訪れ、歩道等の利用度は高い。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 車道等施設は厳しい自然条件下により、整備後の経年劣化などのため老朽化が進んでいる。また、休憩施設内のトイレは利用集中時には太陽光で発電した電力で賄うことができない。 池塘や湿原の魅力を楽しむため、歩道が整備されていないルートを利用する登山者があり、植生破壊が危ぶまれる。 活火山である鳥海山の活動に変化が認められた場合、登山者の早急かつ安全な避難が求められる。

<p>対象地域の整備方針</p> <p>整備方針(植生の保護)</p> <ul style="list-style-type: none"> 裸地化を未然に防ぐため、歩道等を整備することにより、植生部分への踏み込みを防止する。[B] 貴重な高山植物植生地に立ち入らないように歩道周囲にロープを設置する。[B] <p>整備方針(安全性の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> 木道等の歩道整備により、ルートを明確にし、悪天候時の遭難発生を防止するとともに、利用者の転倒による怪我の危険性を軽減させる。[B] 劣化した車道及び休憩施設等を再整備することにより、利用者の安全性を向上させる。[A] 火山活動に変化が認められた場合、登山者を早急かつ安全に避難誘導する。[A][B] <p>整備方針(利用者満足度の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩道を整備することにより、歩道利用者の快適性の向上を図る。[B] 高山植物等を保護することにより、利用者が高山植物等の山岳資源の魅力に触れ、満足度の向上・リピーターの増加を図る。[B] 公衆トイレのし尿処理設備の再整備により、清潔の維持を図る。[A] 	<p>方針に沿った主要な事業</p> <p>(国定公園)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-5岩峰湿原線歩道(県)[B] <p>(国定公園)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-4湯ノ台滝ノ小屋線車道(県)[A] 1-5岩峰湿原線歩道(県)[B] <p>(国定公園)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-4湯ノ台滝ノ小屋線車道(県)[A] 1-5岩峰湿原線歩道(県)[B]
--	--

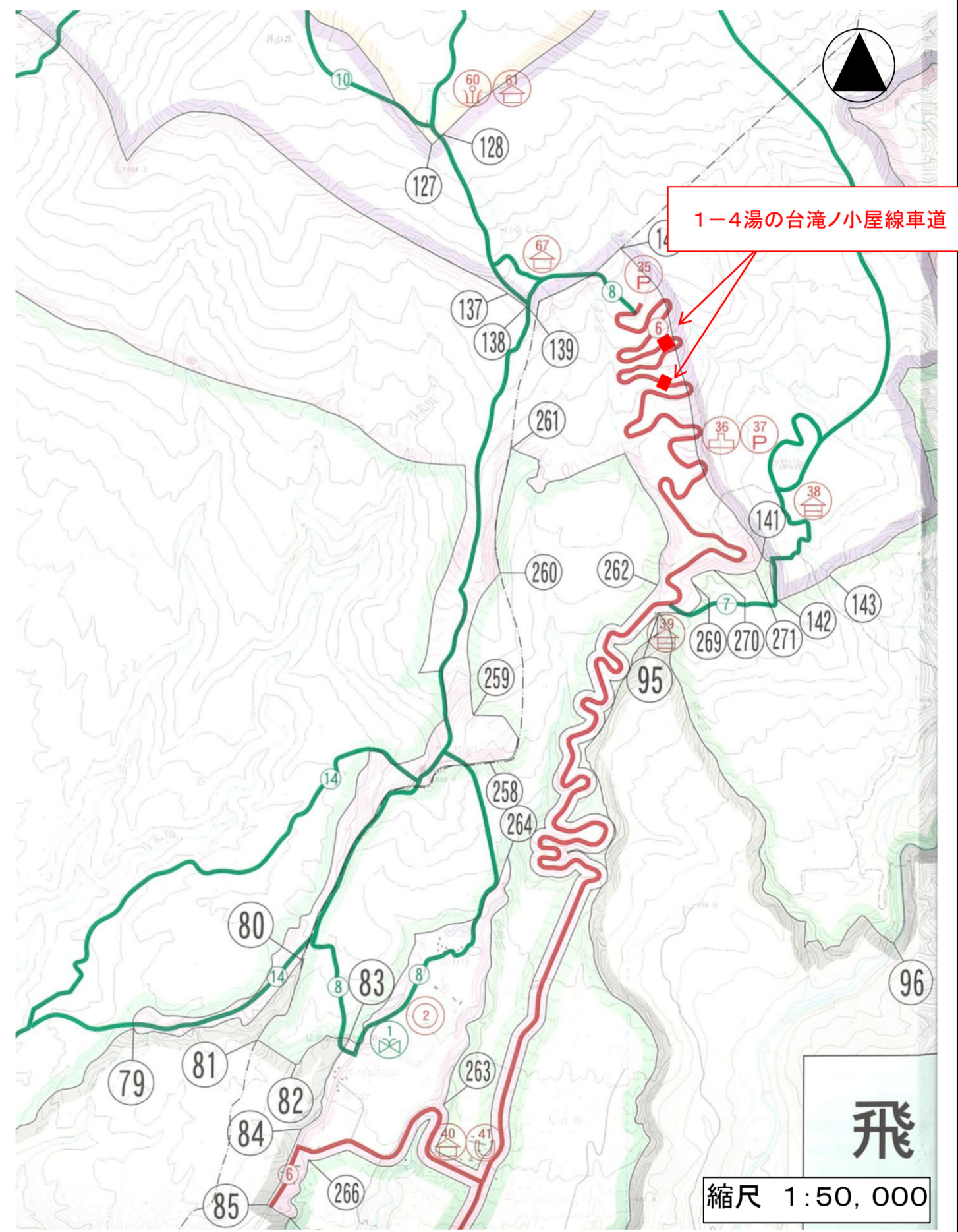
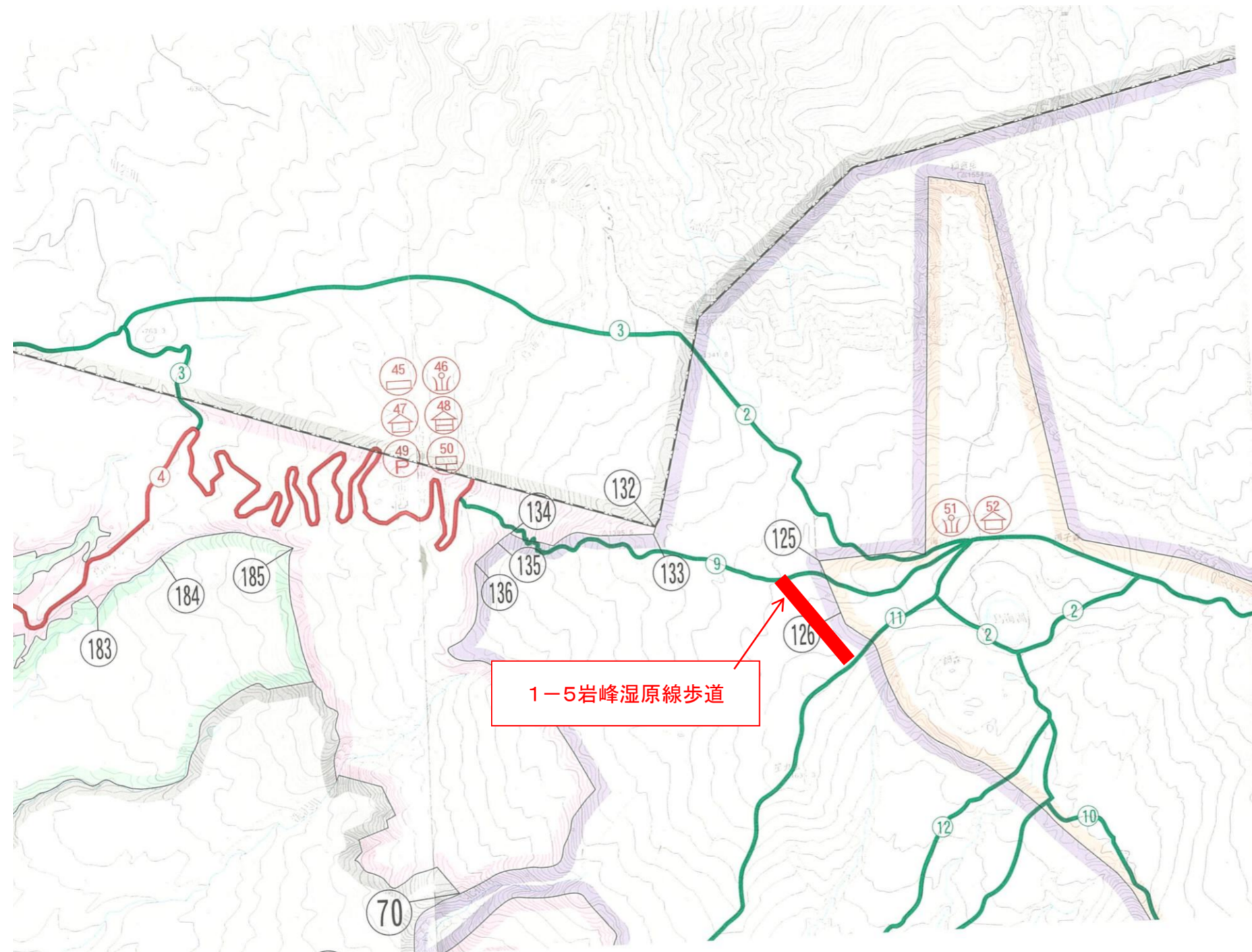
目標を定量化する指標								
指 標	単 位	定 義	調査等の方法	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
						基準年度	目標年度	目標年度
公園利用者数の増加	千人	利用者数の増減数値	山形県観光者数調査における山岳観光者(鳥海山)の数値	「利用者満足度や安全性の向上」に対応する指標とし、利用者数の増加が利便性・安全性の向上を示す数値となる。目標値は従前値の5%増加の値とする。	22.7	令和5年度	23.8	令和11年度

<p>その他必要な事項</p>

概要図(自然環境整備計画(国定公園等整備事業))(山形県)

都道府県名	山形県	対象地域	鳥海国定公園	所在地	サカタン ユザマチ 酒田市、遊佐町
-------	-----	------	--------	-----	----------------------

※ 対象地域の図面を添付すること。



目標、計画期間及び整備方針(自然環境整備計画(国定公園等整備事業))

都道府県名	山形県	対象地域	東北自然歩道
-------	-----	------	--------

計画期間	令和 7 年度 ~ 令和 11 年度
------	--------------------

目標
 大目標:老朽化した施設の整備による自然環境の保全及び適正な利用促進
 目標1:老朽化した案内標識等を再整備することにより、利用者の安全や利便性の向上を図る。

目標設定の根拠

対象地域の現状

- ・東北自然歩道は、多くの人々が東北地方の優れた風景地を歩くことにより、地域の歴史や文化に触れながら、健全な心身の育成と自然や環境保護思想の高揚に資するものである。
- ・山形県内の東北自然歩道には、県内外から年間約2,898千人(令和4年自然公園等利用者数調)が訪れ、歩道や広場等施設の利用度は高い。

課題

- ・山形県内にある東北自然歩道の施設は厳しい自然条件下にあり、整備後相当の年月が経過しているため、施設の老朽化が進んでいる。
- ・歩道のルートを示す案内板や標柱等が老朽化し、色落ちや劣化による機能低下や、突風などによる倒壊のおそれから、利用者の遭難や人身被害等が危惧される。
- ・山形県内における東北自然歩道の利用者数が、平成9年をピークに減少傾向にある。

対象地域の整備方針	方針に沿った主要な事業
整備方針(安全性の向上) ・老朽化した案内標識等を再整備することにより、利用者の安全や利便性の向上を図る。[A]	(東北自然歩道) ・3-1東北自然歩道線歩道(県)[A]
整備方針(利用者満足度の向上) ・案内標識等の再整備により、利用者の利便性を向上させ、地域の文化・歴史や美しい風景の魅力に触れてもらうことにより、満足度の向上・リピーターの増加を図る。 [A]	(東北自然歩道) ・3-1東北自然歩道線歩道(県)[A]

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	調査等の方法	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	
					基準年度	目標年度	
東北自然歩道の利用者数	千人	山形県内における利用者数の数値	自然公園等利用者数調における長距離自然歩道利用者数(山形県)の数値	「利用者満足度の向上」に対応する指標とし、利用者の増減が満足度・利便性の向上を示す数値となる。当面は利用者数の減少に歯止めをかけることを目標とし、目標値は従前値と同じ値とする。	2,898	令和4年度	2,898 令和11年度

その他必要な事項

概要図(自然環境整備計画(国定公園等整備事業))(山形県)

都道府県名	山形県	対象地域	東北自然歩道	所在地	ヤマガタシ 山形市ほか
-------	-----	------	--------	-----	----------------

※ 対象地域の図面を添付すること。



“新・奥の細道”とは

自分の足でゆっくり歩きながら、森や川、野鳥や虫など豊かな自然にふれあい、また、その地域の特色ある文化や歴史と親しむためのみちです。“新・奥の細道”は正式には東北自然歩道といます。この自然歩道は、一日で歩ける程度の遊歩道を1つのコースとして、コースの間をバスなどでつなぎながら東北を一周する長距離自然歩道です。そして、この道は福島県白河を起点とし、宮城、岩手、青森、秋田、山形の順で経由して福島県郡山に至るルートになっています。

また、この“新・奥の細道”は東北を一周するルートの他に、景観の優れた地域や名勝地等に向かうルートがあります。県内でも、月山ルート・蔵ヶ関ルートなど4つのルートがあり、山形県内のルートをあわせた総延長は45コースで469kmとなっています。